

[008]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://hdl.handle.net/2324/7434592>

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 8, 2026-07-10. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



編集後記

工学研究院附属環境工学研究教育センター研究活動報告第 8 号をお送りします。環境と調和した人類社会の発展のため、環境への負荷の小さな循環・共生型社会システムの実現、環境的に安全な資源エネルギーの開発・利用、資源の循環的利用技術をキーワードとした 3 つのハブの属性を持つ研究室を結集し、研究教育活動を行ってきました。本報告により、多数の革新的な成果が得られたことをご確認いただけたと思います。

環境センター活動報告の後記として、近年の地球規模での気候変動について触れる必要があります。特に近年においては、ここ九州においても、毎年複数個所で起こる線状降水帯による長雨と洪水被害、夏の極端な酷暑など、気候変動の影響をごく身近に感じる事が多くあります。環境センターの一員として、学内のみならず自治体や地域住民とも協力して行く必要を感じています。本報告書の内容が解決のヒントになることを願っています。

翻って世界に目を向けると、ウクライナやイラン、その他多数の地域での紛争が大きな問題となっています。また、日本においても、紛争の影響に伴う食糧や鉱物資源の高騰が、私たちに直接関係しています。紛争による痛ましい人的被害のみならず、破壊され喪失する資源の大きさは、日本で通常に消費する資源とはけた外れのものであり、環境に与える影響としてこれほど深刻なものはないと言えるでしょう。紛争の終結を願ってやみません。

環境センターにおいては、20 年近く前に設置した多数の分析機器が寿命を迎えつつあります。このため、機器の更新を進め、また外部からの分析もより容易に受け入れられるよう、HP などのシステムを改善し、より九大の中で身近な存在になるよう検討中です。センター構成員の皆様には今後より一層のご協力をお願いすることになると思いますが、よろしくお願いします。最後になりましたが、本報告書を作成するにあたり、お忙しい中、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

(三木 記)